

## 第40回香川県環境審議会計画部会議事録

平成27年3月19日（木）

日 時	平成27年3月19日(木) 午後1時30分～午後3時30分
場 所	県庁本館 12階 大会議室
出席者	<p style="text-align: center;">香川県環境審議会委員(9名)</p> <p>委員 綾 婦 美 子 香川県商工会議所女性会連合会副会長  委員 石 川 恭 子 高松リビング新聞社編集長  委員 勝 浦 敬 子 NPOグリーンコンシューマー高松代表  委員 金 子 之 史 香川大学名誉教授  委員 妹 尾 理 子 香川大学教育学部教授  委員 竹 内 麗 子 香川県各種助成団体協議会会長  委員 中 須 純 子 香川県女性校長・教頭の会会長  委員 増 田 拓 朗 香川大学名誉教授  委員 三 原 典 子 JA香川県女性部部長</p> <p style="text-align: center;">事務局(23名)</p> <p>環境森林部 部長 川田 浩司  次長 大山 智</p> <p>環境政策課 課長 秋山 俊次  副課長 豊島 貴子  課長補佐 白井 秀信  課長補佐 川田 昭子  課長補佐 久保 雅紀雄  副主幹 藤井 克昭  副主幹 山本 英幹  主任 河内 由香  主事 佐伯 健太</p> <p>環境管理課 課長 今雪 良智</p> <p>みどり保全課 課長 大石 泰輔  副課長 今井 浩平  課長補佐 高尾 勇一郎</p> <p>廃棄物対策課 課長 三好 謙一  副課長 安富 宏明  課長補佐 池田 浩史  課長補佐 新名 英明</p> <p>みどり整備課 課長 杉山 綱敏</p>

	副課長 下村 健次 課長補佐 穴吹 浩之 副主幹 佐々木 敬介
欠席委員	委員 久米川 啓 香川県医師会会長 委員 栗田 隆義 香川県町村会会長 委員 松本 タミ 弁護士
議 題	(1) 基本目標・施策体系について ①「香川県環境基本計画」 ②「香川県地球温暖化対策推進計画」 ③「香川県廃棄物処理計画」
配布資料	(1) 第40回香川県環境審議会計画部会次第 (2) 第40回香川県環境審議会計画部会座席表 (3) 第40回香川県環境審議会計画部会出席者名簿 (4) 香川県環境審議会計画部会委員名簿 (5) 資料1 香川県環境基本計画の施策体系 (6) 資料2 香川県地球温暖化対策推進計画の施策体系 (7) 資料3 香川県廃棄物処理計画の施策体系 (8) 資料4 環境基本計画に掲げる環境指標一覧 (9) 冊子 香川県環境学習教材「さぬきっ子環境スタディ」 (10) 冊子 かがわ「里海」づくりビジョン
会 議 録 署名委員	勝浦 敬子 委員 金子 之史 委員
議事の概要	議題(1)について 「香川県環境基本計画」、「香川県地球温暖化対策推進計画」及び「香川県廃棄物処理計画」の次期計画の基本目標・施策体系について説明した。

第40回 香川県環境審議会計画部会 議事概要

<p>司会 (豊島副課長)</p>	<p>お待たせいたしました。ただ今から、第40回香川県環境審議会計画部会を開催させていただきます。 開会に当たりまして、川田環境森林部長から御挨拶を申し上げます。</p>
<p>川田部長</p>	<p>(部長あいさつ)</p>
<p>司会 (豊島副課長)</p>	<p>引き続きまして、増田部会長から御挨拶いただきたいと存じます。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>(部会長あいさつ)</p>
<p>司会 (豊島副課長)</p>	<p>それでは、申し遅れましたが、私は、環境政策課の豊島と申します。 本日の会議の進行をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。 まず最初に本日の資料の確認をさせていただきます。机の上に、本日の会議次第、座席表、出席者名簿、計画部会委員名簿、そして、右肩に資料番号1から4、さぬきっ子環境スタディ、かがわ里海づくりビジョンの冊子をお配りしております。委員の皆様、資料はお揃いでしょうか。 また、本日は、御都合により、香川県医師会長の久米川委員、香川県町村会会長の栗田委員、弁護士の松本委員が御欠席でございます。 なお、本日御出席いただいております委員は、12名中9名で、香川県環境審議会条例第7条第2項に定められております、委員の2分の1以上の出席という、開会の定足数を満たしておりますことを御報告申し上げます。 それでは、これからの議事の進行につきましては、環境審議会条例第7条第1項の規定により、増田部会長に議長として議事進行していただきたいと存じます。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。 まず、議事に入ります前に、本審議会運営規程第4条第2項により、本日の会議録に署名していただく委員を指名させていただきます。 勝浦委員と金子委員に、本日の議事録の署名をお願いします。 (勝浦委員、金子委員了解) それでは、議事に入りたいと思います。 本日の議題は、環境基本計画、地球温暖化対策推進計画、廃棄物処理計画の基本目標及び施策体系でございます。 これらにつきまして、事務局から見直し案の説明を順番にお願いします。 委員の皆様方には、事務局からの説明の後に、御質問、御意見をお願いしたいと思います。</p>

事務局	<p>(大山次長より香川県環境基本計画の基本目標及び施策体系について説明)</p> <p>(秋山環境政策課長より香川県地球温暖化対策推進計画の基本目標及び施策体系について説明)</p> <p>(三好廃棄物対策課長より香川県廃棄物処理計画の基本目標及び施策体系について説明)</p>
増田部会長	<p>ありがとうございました。3計画について御説明をいただきましたが、御質問、御意見がありましたらお願いします。1月の部会で出されました御意見をかなり反映していただいているかなと思います。</p>
妹尾委員	<p>今回、資料を見せていただきまして、次期計画では、大きく教育が入ってきたということで、とても良い計画ではないかと、私自身は思いました。それで、教育がすべての分野にまたがるというふうに捉えられて、押さえられているということも、本当にそのとおりだと思いますので、今後、様々な取組みを進めるうえで、環境教育、環境学習を意識することは不可欠だと思います。</p> <p>それで少し質問か意見か微妙なんですけれども、環境教育、環境学習という言葉のみが、資料1の1の1でとても重視されているんですけれども、この言葉自体を聞きますと、少し特別なイメージをいただく方も多いのではないかと思います。例えば、様々なところで普及啓発とか情報提供といったところがありますが、情報提供のあり方を工夫するということがそのものが環境教育であったり、環境学習であったりするのではないかと考えているんですけれども、そのあたり意識されているのか、例えば、そういった情報提供のあり方を見直して環境学習として取り組むということは考えられているのか、そのあたり、まず、伺ってみたいと考えております。</p>
川田部長	<p>委員おっしゃるとおり、情報提供のあり方は難しいため、環境学習の関係でも、大きな課題の一つです。例えば、教材もたくさんあるんですけれども、一体どこに行ったらどういった物があるかというのが良くわからないという声をよくお聞きします。ですので、次期計画で、こういった物について、何か学ぶ資料が欲しいと言えば、そういうものが検索できるようなものとかですね、そういった物が、何かできないかなということも、中で議論しているところでございます。ですから、この環境学習でそれぞれの場所で行うことも含めてどういった部分にニーズがあるのかにつきましても、何か取り組みたいかと研究しております。具体的なことは、大きな方向の中で、まとめていきたいと思っておりますけれども、今、そういったことは意識しております。</p>
増田部会長	<p>よろしいでしょうか。妹尾委員もテキスト作りに御協力いただいているようでございますが。</p>

妹尾委員	<p>そのようにしていただいたらいいんですけども、一つの意見として、情報提供を大量にしすぎるのも、無駄といただきますが、様々なパンフレットをたくさん配ること自体も改めて問い直した方がいいと思うんですね。知識をどんどん与えるというスタンスでは、なかなか人の心に入っていかないという気がします。先程のさぬきっ子のパンフレット、リーフレットを提供していただきましたが、やはり、気づくとか考えるとか、なぜこうしなくてはいけないのかという、そういう新たな認識を得たとかいうことが、人の行動につながっていくような気がしますので、情報を提供すればいいということではないことをしっかり書いていただければと思います。</p>
増田部会長	<p>里海づくりの取組みを私もやらせていただいているんですけども、宮川の方の活動で、地域の人に集まっていただいて、川のごみを拾いました。ただ拾うだけではなくて、何でここにこんなごみが出ているのかを皆で話し合いました。それで、うちが捨てていたとか、そういう気付きみたいなものを、皆で共有することによって、ごみを捨てるのを減らしていこうという考え方が広まっています。実際の取組みの中で、自分の日々の生活に、これに関わっていたなという気付きが増えてきます。県の方からも、取組みの中で、いろいろなサポートをしていただくといいのかなと思っています。</p>
金子委員	<p>資料4については、御説明いただいているんですけども、私が質問してもよろしいでしょうか。</p>
大山次長	<p>前回、金子委員の方から意見をいただきまして、資料4、指標の進捗状況、A、B、C、D評価につきましては、文字では示させていただきましたが、視覚的に推移が分かった方がいいのではないかというアドバイスをいただきましたので、整理させていただいたものでございます。</p>
金子委員	<p>これについての、事務局側でのコメントはないのですか。私は、これを見て、少しコメントがあるんですけども、私の方から言ってよろしいでしょうか。全部評価できている訳ではありませんが、このように図を作っていただきますと、傾向的に今までのデータから、平成27年度もこの辺で妥当だろうというもの、これはあまりにも高すぎるとか低すぎる、なんでそういうことが可能なのかというような、ある意味で言えば、二つのものが出てくると思うんですね。</p> <p>例えば、資料4の1ページの左にパークアンドライド用駐車場駐車可能台数があるんですけども、この傾向のラインの延長線上では、平成27年目標はあまりにも高いように思えますね。そうすると、これだけ高い目標を設定できるのは、何かこういう施策があるから可能なんだというようなことを、言っていただく</p>

	<p>と、目標値と施策とのリンクが可能になってくるのかなと思うんですね。ですから、その辺のところをどのように御検討されたのかなと思います。例えば同じページに一般廃棄物のリサイクル率がありますが、それほど変わってはいないけれども、全体的には減少の傾向となっています。それが、これだけ高くなる。これは、今回の施策につながるというふうな形で評価できる、そういうふうなことだと思うんですね。ですから、この図を見て、今回の施策のこういうふうな形に反映しているんだとか、この図を見て、こういうことは、施策からすぐにはできないから、このような方法を考えたとかいうような説明がある方がいいと思うんですね。</p>
増田部会長	<p>次回に数値目標みたいなものが出てくると思うんですね。今回は、施策区分と施策展開の項目が出ていて、数値目標は、今回出ていません。これは、現行計画の目標ですね。この図を見て、見直した数値が次の部会に出されるということですね。</p>
大山次長	<p>そのとおりでございまして、次回、5月の末か6月ぐらいに御議論をいただけたらと思っております。その中で、今から短期間ですので、どこまでのものができますか分かりませんが、お示しさせていただいて、御議論をいただけたらと思います。</p>
増田部会長	<p>すみませんが、これに目を通していただいて、次回の部会に出ていただければと思っております。あるいは、今回、金子委員、何か御意見があれば、出していただければ、これから数値目標等の検討に入るときに、活かしていただけるかなと思います。今のパークアンドライド用駐車場駐車可能台数もこのままではなくて、次の計画では見直しがあるのではないかと思います。</p>
中須委員	<p>失礼します。前回と比べまして、文言が大変わかりやすく、具体的に何をしようというのが、私にも良く分かります。短期間で、御検討いただいたことは、本当にありがたいと思います。学校教育の現場から言えば、出前講座や親子環境学習講座などを開設していただけるということで、大変ありがたいと思います。地域的にいいますと、出前講座は各学校や地域に寄っていただくんですが、何とか講座とか何とか講座というものは、地域に偏りがある場合が多くて、西の端の方から子供に勧めるには、なかなかできない場合もあります。幅広く見ていただいて、そういう講座の開設とか教室の開設等、御配慮いただけたらありがたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
増田部会長	<p>地域間で差が出ないようにということです。私の方で、資料2、地球温暖化対策推進計画の2ページ、省エネルギー行動の拡大の下の図で、エネルギー消費量が産業部門では減っているけれど、民生家庭部門がプラス27%とでてい</p>

	<p>るんですけど、この原因は分かりますか。</p>
秋山環境政策課長	<p>家庭での電化製品とかが大型化で普及していることも考えられます。</p>
増田部会長	<p>オール電化ということも考えられるんですかね。</p>
川田部長	<p>一つは、人口は減少しているんですけど、世帯数は増えてきています。世帯数が増えますと、どうしても家庭内での使用量が増えていくということもあります。それに、やはり家庭での省エネルギーの取組みが、企業では工場で大規模に行っているんですけども、まだまだそこまで無理をしていないとか、快適な暮らしの方がいいとかというような部分が強いのではないかと思います。</p>
増田部会長	<p>温暖化で冷房を多く使うということがあるんですかね。改めて、数字が大きいなと思いました。</p> <p>どうでしょうか。1月の部会で、皆様からいただいた御意見が、大分反映されて、分かりやすくなっていると私も思います。どんなことでもよろしいので、何か御意見、御質問があればお願いします。</p>
石川委員	<p>質問ですけど、資料3の右側の上から2番目、リデュースに向けた取組みの推進の中の食品ロスの削減があるんですけども、これは、家庭でも、お店でも両方でしょうか。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>対象を今現在の段階で絞っている訳ではありませんが、幅広く行っていく必要があると考えております。</p>
石川委員	<p>今、どれくらい食品ロスが出ているか分かりますか。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>県下のものは分かりません。</p>
増田部会長	<p>2ページの図3のちゅう芥類の細かいデータみたいなものはあるんですか。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>これは、重量ベースになっているものではありません。</p>
増田部会長	<p>あまり細かいところまでは、家庭から出たか、事業所から出たかは分からないんですね。</p>



石川委員	<p>素朴な疑問でしたので。</p>
川田部長	<p>大雑把な話になりますが、今、賞味期限が切れて捨てられる食べ物が多くて、世界の難民の方々に食糧援助しているよりは、食べなくて捨てる量の方が多いというような新聞記事を読んだようなこともございます。本来ですと地球上で食べられない人たちがいる一方、賞味期限が終わって捨てるとか、冷蔵庫の中でも気が付いたら賞味期限が過ぎていたので捨てるという量が、このちゅう芥類の中でも、ちゅう芥類もいくつかあって、自分たちが料理してどうしてもごみになる部分と、作ったけれど食べられなくて捨ててしまうというのがかなりの割合であるというような、正確な数字はないんですけど、そういった現状です。国全体でも賞味期限の期間を見直しをしていこうとか、そういった動きにもなっておりますので、それも鑑みて、今後5年間、そういった部分にも焦点を当てて、本当に食べられるのに捨てるというのはもったいないと思いますので、何かできないかなという考えをしております。</p>
増田部会長	<p>スーパーとかコンビニあたりの業界で期限切れの商品をどうするかみたいなことですね。</p>
竹内委員	<p>似たような話ですけど、昨年香川県で初めて生活支援センターを社会福祉法人として立ち上げさせていただきましたが、それと並行して、香川県においてフードバンクの設立活動を推進していかなければいけないというような状況にきているんですけども、各企業が災害の備蓄としているものを、何年かに一度放出します。例えば、NTTドコモだと、四国支店だけでもソイジョイを5万食ぐらい常時備蓄されていて、それを3年に1回ぐらい放出します。そういうものが放出された時に、各家庭にお持ち帰りいただいても、賞味期限が後3か月か2か月ぐらいしかないと、捨てられる可能性があるんで、それを組織的に官民が協力して、フードバンクのような組織を作って行って、有効に使うという方向を進めさせていただきたいなと思っております。ぜひ、そのあたりは、御協力をいただきたいと思います。それと、質問ですが、リサイクルの推進のところでございますけれど、紙布が27%、事業所の紙類が55%というデータが出ています。事業所の場合、紙ベースからデータベースに進んでおりますが、それでも55%の紙が出るというのは、ISOとかで指導しても、データベースで行政がいろいろな申請書類を受け付けるようになって、なおかつ、それを裏付けるように紙ベースの申請書も並行するという事は、やはり官が示す民へのサンプルみたいな弊害があって、そのため、今、事業所の方でも経費を節減するために、多い所は別にして、余程シュレッダーにかけなければいけない紙でなければ、リサイクルの日に出します。結局そういう形で増えていっているというのを聞いたことがありますので、そのあたりのこと</p>

	<p>も御注意いただけたらと思います。</p> <p>それから、グラフの方で、産業廃棄物の最終処分場は減っているのに、排出総量は増えていっているというのが、私は理解しがたいんですが、これはなぜでしょうか。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>近年の景気動向に左右される面がございまして、微増というような状況になっておりますが、見ていただきますと、リサイクル率の方は、年々上がっていくと。搬出されてもリサイクルされますと、最終処分といいますのは、埋め立ててございましてけれども、そちらの量は減っていきます。確かに排出量は増えているという面はありますが、リサイクル率が向上し、その結果、最終処分量も減っているということです。</p>
竹内委員	<p>中央は別として、ローカルの方は景気動向は芳しくございませんが、それでもやはり、産業廃棄物の排出量というのは、あまり、大きく変化はしてこないものなんですか。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>そうですね。特に24年度は、若干増えてますけれど、比較的建設業などの動向は、この期間につきましても、香川県内においては、比較的いい数字で動いているというような傾向になっております。</p>
竹内委員	<p>それでは、これからはもしかするとデータが変わってくるかもわからないということですね。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>例えば、25年度とかになりますと、これも、昨年度の消費税の駆け込みで、家を建て替えるとか、そうした大量の産業廃棄物が生まれてしまう社会状況がありました。そういう社会状況が、排出量に出てしまうという、これが産業廃棄物の傾向です。</p>
増田部会長	<p>リサイクル率は高くなっているということですね。今、良い御意見をいただきました。賞味期限がきた食べ物をどうするのか、そのことについて、官民一体となって対策を考えていただきたいと思います。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>先程のちゅう芥類の発生量ということですが、平成24年にごみ焼却施設に約23万トンが搬入されているということで、ちゅう芥類は大体38%ということで、概算ですけれども約8万8千トンぐらいが搬入されているのではないかと考えております。</p> <p>それから、備蓄の関係ですけれども、県の方も備蓄を行っております。そうしたものをどのように使っているかと申しますと、香川県の防災訓練ですとか、各市町が住民を交えて防災訓練をする時に配布して、食べてもらうとか、その</p>

	<p>ような消費にさせていただいて、一応、ごみになるような形にはせずに、賞味期限が来る1年位前に放出するというようなことで、循環するような努力をさせていただいております。</p>
竹内委員	<p>こういうことを、もう少し事業者にも協力を求めてはと思います。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>民間事業者にも御協力を求めて行っていくということですね。</p>
竹内委員	<p>様々なイベントがあるじゃありませんか。私も経済同友会の方で、スマートドライバーキャンペーンを立ち上げて、毎年させていただいているんですけども、その時に、企業から配布グッズとしてそういうものをいただきますと、各ブースを訪れた人に対して、これはこういうものですよと説明して、御利用いただくだけでも、御理解が増えてきますので、行政からも拡がるようにお願いします。</p>
三好廃棄物対策課長	<p>民間の方にも拡がるような形のことを検討していきたいと考えています。</p>
竹内委員	<p>よろしくお願いします。</p>
妹尾委員	<p>少し気になっていますが、基本計画の環境の将来像の文言ですけれども、前回は、環境と共生を基調とする持続可能な社会ですけれども、今回は、人と自然が共生する豊かで美しい香川ということで、非常に親しみやすいと言えば親しみやすいんですが、環境基本計画の将来像として、これでいいのか、疑問があります。持続可能とか循環とか、そういうものを全て無くして、こういう柔らかな文言にした理由を教えてください。</p>
川田部長	<p>ここは、いろいろ御意見をお聞きしたいと思っておりました部分です。      今回、重点的に取組むところの中で、里海づくり、生物多様性、有害鳥獣などが、今回の計画の特徴となっております。それと、先程説明にもありましたように、ちょうど瀬戸内海国立公園の80周年記念事業を終えた後で、更に、そういったものを次に引き継いでいこうという時期に作成するというので、今回にポイントとして、そういったことに重点的に取組むということで、そういった色合いを強く出しているということでございます。      確かに、循環と共生という言葉、そこについては、廃棄物処理計画で循環型社会という形で出させていただいているところでございます。</p>
増田部会長	<p>そのへんのところは、人それぞれ受け取り方があると思います。</p>

勝浦委員	<p>今回、2Rに重点を置くということで、やはり、リユースだけだとなかなか前に進まないということもありますが、リデュースという実際に活動できる、実施できる内容のものを最初に取り入れていただいているので、とてもいいと思っております。是非、リデュースが進められるような施策を検討していただけたらありがたいと思っております。</p> <p>先程、食品の廃棄は、日本では生産される量と同じだけ廃棄されているということがいつも問題になっておりまして、ロスの食品に関しては、東京の方では、ブルーシートで寝ている方というんですか、そういう方を集めて食品を配布するという団体も出てきており、香川の場合は、そういう人口は少ないので、そういうことはないと思うんですが、いろいろな地域で活動されているということ何かで知りました。是非、この2Rを推進していただけたらありがたいと思っております。</p> <p>それともう一点、前回いただいた資料の中で、香川県のリサイクル率の推進のところで、土庄町と小豆島町が少ない理由は、どんな状況があるのかなと思っただんですが。</p>
増田部会長	資料3の3ページの図6が前回の資料と同じです。
三好廃棄物対策課長	リサイクル施設の整備が、他の市町に比べて少し悪いことと、島しょ部ということで、回収に回る部分が少ないのかなと思っておりますが、手元に正確な資料がありません。
増田部会長	公共が集めるのではなくて、民間が集める量が把握できていないと言われた部分ですかね。
三好廃棄物対策課長	そういった部分もあると思われませんが、個別の市町の部分まで把握できておりません。
勝浦委員	分かればお願いします。
増田部会長	また調べていただけると幸いです。
金子委員	<p>先程、妹尾委員がおっしゃられた次期計画の環境の将来像の言葉ですけれども、これに関連して、前回は、循環とか持続可能とか、いわゆる明示的な言葉だったと思うんです。ところが、今回の言葉は、豊かとか美しいという言葉が入っているんですね。これはある意味で、人の価値観に連動しているからどういう社会を作っていくかとするのかとか、共通の目標として明示的にはたして語られるのかどうかというのが、この言葉の難しいところではないのかな。だ</p>

川田部長	<p>から、そういう点を御考慮いただいたような目標になる言葉の方がやはりふさわしいのかなと思いました。</p> <p>今の御質問に関連してお話しさせていただくのが、実は今、国の方で瀬戸内海の基本計画が見直しをされたところでございます。そこで従来は、瀬戸内海をきれいな海にしようというので、数値目標で管理していたんですけども、そうしてもなかなか魚が採れなくなったということがあって、県の計画を来年度から作っていくんですけども、そこで目指しているのが、豊かな海に戻していこうという方向が出されていることもあって、丁度、今回の計画と時期も合わせてそういった国の方向もありましたので、豊かとはそういった意味合いが入っているということでございます。</p> <p>ここは、今回、いろいろな意見があれば、また、意見を伺って、私どもの方で別の代案を考えて、次回までにお持ちしてもよろしいかと思いますし、考え方としては、このような背景があるということでございます。</p>
妹尾委員	<p>今話を聞きながら、それでは豊かで美しい香川という言葉自体は問題ないと思うんですけども、やはり、例えば、今回環境教育とかそういう人を育て的な中身がすごく重点に置かれていると思いますので、そうしましたら、この将来像にも、そういう豊かで美しい香川を作る、何か人が作る香川みたいな、そういう主体が私たちであるみたいなそういった付け方、あと、この言葉からは、社会のシステムとかが全く感じられないということがちょっと問題かなと思いましたので、何か持続可能な社会を作る県民であるみたいな、それが豊かで美しい香川県を作ることだと思いますので、何かこれだと県のスローガン、観光県香川ですみたいなそういうイメージがどうしても感じられて、もう少し狙いが見えた方がいいのかなという気がしました。</p>
増田部会長	<p>この話をすると、人数分だけ意見が出る気がします。私も、いろいろな基本計画に携わるんですが、5年毎にキャッチフレーズを見直す時があって、5年毎、10年毎にキャッチフレーズを変えていくよりは、それよりは、100年続くようなどっしりとしたものがあって、これだと間違った方向に行ったり、重点の置き方が違うことがあれば、変えていったらいいと思います。</p> <p>いろいろ御意見を言っていて、事務局の方で考えていただけたらと思います。</p>
綾委員	<p>省エネルギー行動の拡大のところなんですけど、世論調査で、とても重要であるという回答が76%ありまして、現在の満足度は20%となっていますが、何をすれば、満足するんでしょうか。省エネだけでしょうか。</p>
秋山環境政策	<p>地球温暖化対策という意味で、今、気温上昇とかそういったことが言われて</p>

課長	<p>いますので、自然現象としてでも、気温の上昇が続いたり、豪雨災害が多くなったりといったことが、現れてきているということで、満足度が低いのかなと考えられます。それにつきましては、国全体のエネルギー政策とか、温室効果ガスを減らしていくというふうな国全体の取組みとともに、やはり地域でできる取組みとして、身近なところから省エネを進めていくということで、今回の施策体系を考えております。</p>
増田部会長	<p>CO2濃度があれだけ世界中でいわれていても、いまだに上がり続けているという、20世紀よりも21世紀になってからの方が上がり方が激しい。</p> <p>今、地球環境に満足ですかという質問をすると、全然できていないという方が多いだろうと思います。その反対として、だから重要だ、もっとしっかりやれと、そういうことかと思えます。</p>
三原委員	<p>皆さんの意見をお聞きしまして、これから考えなくてはいけないなと思えました。</p> <p>JAでの活動を見ますと、これからの基本計画の資料1の中の、里海づくりに関しては、私たちは、海だけではなく、先程増田部会長がおっしゃいましたように、川の掃除をした時に、どうしてここにこれだけのごみがあるのかということも考えていかなければいけないなと思っております。そして、女性部の方でもこういうことに大いに取組みさせていただきたいし、今の省エネの部分でも緑のカーテンづくりとかあまりクーラーをつけないとか。</p> <p>ただ、あまり省エネをしすぎますと、お年を召した方にとっては、不幸なSことが起こりますが、全般的には、省エネをちゅちゅしなければと思っております。</p>
増田部会長	<p>いろいろ御意見をいただきましたが、他に何かありますでしょうか。</p>
勝浦委員	<p>先程の続きとなりますが、運輸部門がやはり多いと思うんですね。家庭部門は、年をとりますと、冷暖房が必要になり、我慢できなくなります。運輸部門でしたら、もっと削減することもできるでしょうし、効果が大です。</p>
増田部会長	<p>何か県の方でございますでしょうか。</p>
川田部長	<p>確かに交通機関を利用するとか、近い所でしたら、自転車で行くとかですね。やはりそうした取組みを進めなければいけないんだろうと思います。県下の市町でいろいろ施策を行っているんですけども、現実になかなか伸びないところもあるんですね。一体どうしたら、次の5年間、少しでもそういう行動が伸びるのか、検討させていただきたいと思えます。</p>

勝浦委員	金曜日に車に乗らないという運動がありましたね。それは、今でもあるんでしょうか。
川田部長	今でも実施しておりますし、県庁の中でも、金曜日になりますと、エコ金デーと言いまして、庁内放送でも流れて、できるだけ車に乗らずに来てくださいということはあるんですけども、だんだんマンネリ化してきています。
増田部会長	<p>いろいろな取組みの中でそういうことを広げていく。普及啓発といいますか、そういうことだと思います。</p> <p>具体的な数値目標等につきましては、次回の部会で御検討いただくということで、本日はよろしいでしょうか。議題につきましては、これで終了させていただきます。</p> <p>事務局から何か連絡事項がありますか。</p>
司会 (豊島副課長)	次回の計画部会につきましては、日程調整をさせていただき、部会長と相談のうえ、御案内させていただきますので、よろしく願いいたします。
増田部会長	それでは、本日の議事、全て終了でございます。いろいろ活発な御意見をいただきありがとうございました。次回以降もよろしく願いします。ありがとうございました。
司会 (豊島副課長)	<p>以上をもちまして、香川県環境審議会計画部会を終了します。</p> <p>本日は委員の皆様方、長時間にわたりありがとうございました。</p>